



伊那市DXしあわせのまち宣言

～ 誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指して～

伊那市は、これまでに、伊那地域定住自立圏の形成に係る「中心市宣言」（平成27年6月25日）、市民参加による社会林業都市の構築を目指す「ソーシャル・フォレストリー都市宣言」（平成28年9月27日）、二酸化炭素の更なる排出抑制に取り組む「2050年カーボンニュートラル宣言」（令和3年3月19日）等を発出し、地方から日本の未来の形を提示するとともに、日本を支えるモデル都市として、地方創生を牽引してきました。

また、更なる人口減少の加速化が予測される中、少子高齢化等に起因する担い手人材の不足や経済の低迷、コミュニティ機能の脆弱化など、様々な地域課題に対し、IoTやAIなどテクノロジーの活用を図りながら、生活の利便性だけではなく、暮らしの豊かさや働き方の変革等につなげるデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進しています。

一方で、全世界に目を転じれば、グローバル・スタンダード（世界標準）として2015年9月に国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）や、企業投資の新しい判断基準として注目されるESG（環境・社会・ガバナンス）の観点などからも、誰一人取り残すことなく、将来にわたり持続可能な社会を構築していくことが重要とされています。

こうした状況を踏まえ、今後も、「伊那に生きる、ここに暮らし続ける」という市民の決意と誇りを胸に、官民協働によるテクノロジーとマンパワーの融合を通じ、困っている人に希望の光を届け、誰もが等しく幸福な生活を営むことができるよう、「しあわせのまち」づくりに取り組んでいくことを、ここに宣言します。

令和3年3月30日

伊那市長

白鳥孝

